

景気動向調査報告書

令和6年10月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和6年10月末）を基準とした業況等につい
てまとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所

- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和5年10月	令和6年4月	令和6年10月	令和7年4月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	39	25	10	6	12	3	95

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	27社	13社	11社	7社	13社	15社	9社	95社

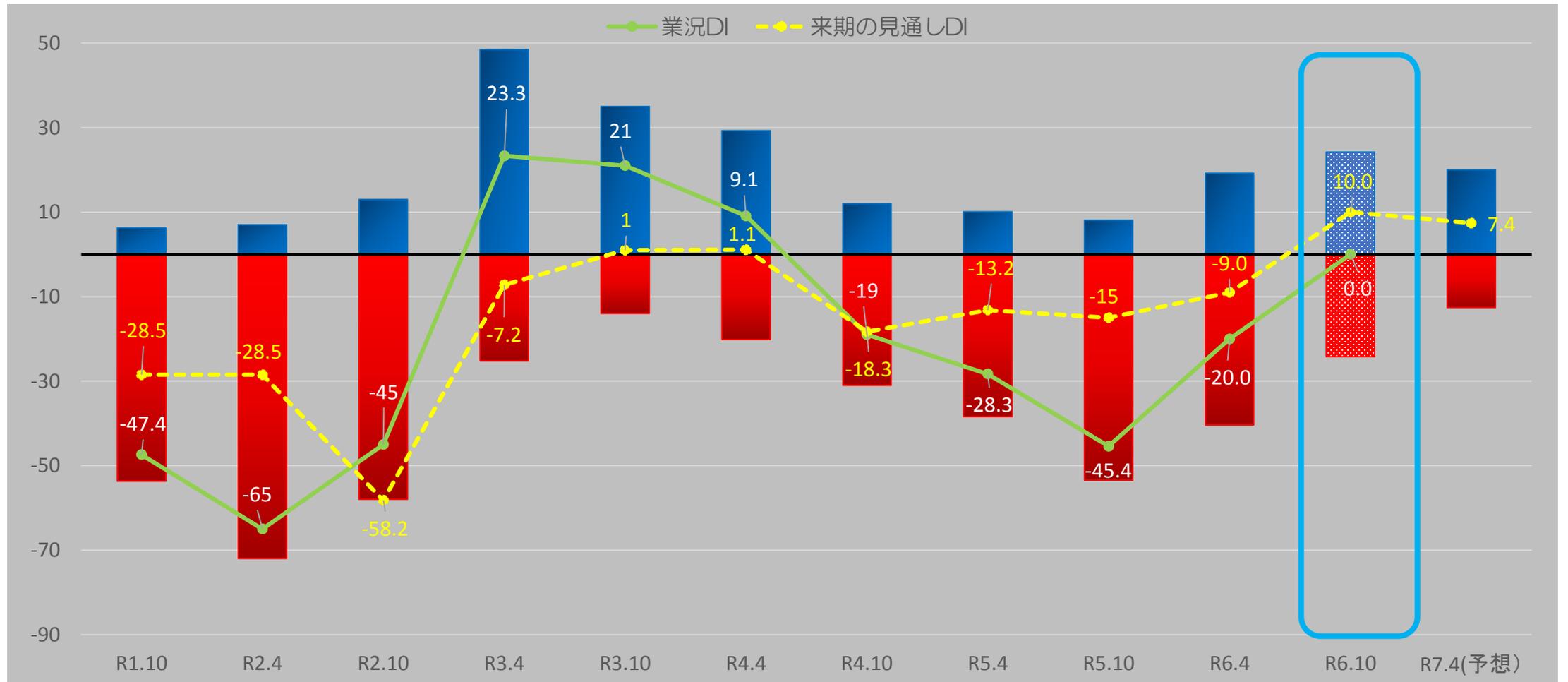
令和6年10月景気動向 調査結果のポイント

- 今期の本市製造業の業況DIは、半導体関連、医療関連分野などを中心に回復基調にあるなかで、自動車関連や産業用機械関連分野では低調・横ばいの状況が続いているほか、海外経済や物価高等の影響もあり、プラスマイナス0となりました。操業率や収益率はマイナス水準であるものの、生産額や受注額はプラス水準に転じており、総体的に改善傾向を示しています。
- 来期の見通しについては、業況DIは2期連続でプラス水準を示しています。半導体関連は引き続き好調とし、また、低調に推移していた自動車や産業用機械関連分野においても一部で回復の兆しを捉えるなど、受注の増加が期待されています。
- 経営上の問題点では、「原材料の価格上昇」がトップとなり、「生産・売上・受注伸び悩み」と並び約半数の企業で課題として捉えられています。物価高の影響、景気の状態が表れており、また、これらを起因とする価格転嫁への対応や人件費の上昇についても多くの企業で経営への影響を課題としており、これらの解決に向けた対応が求められています。

※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6ヵ月後)のDI値です。

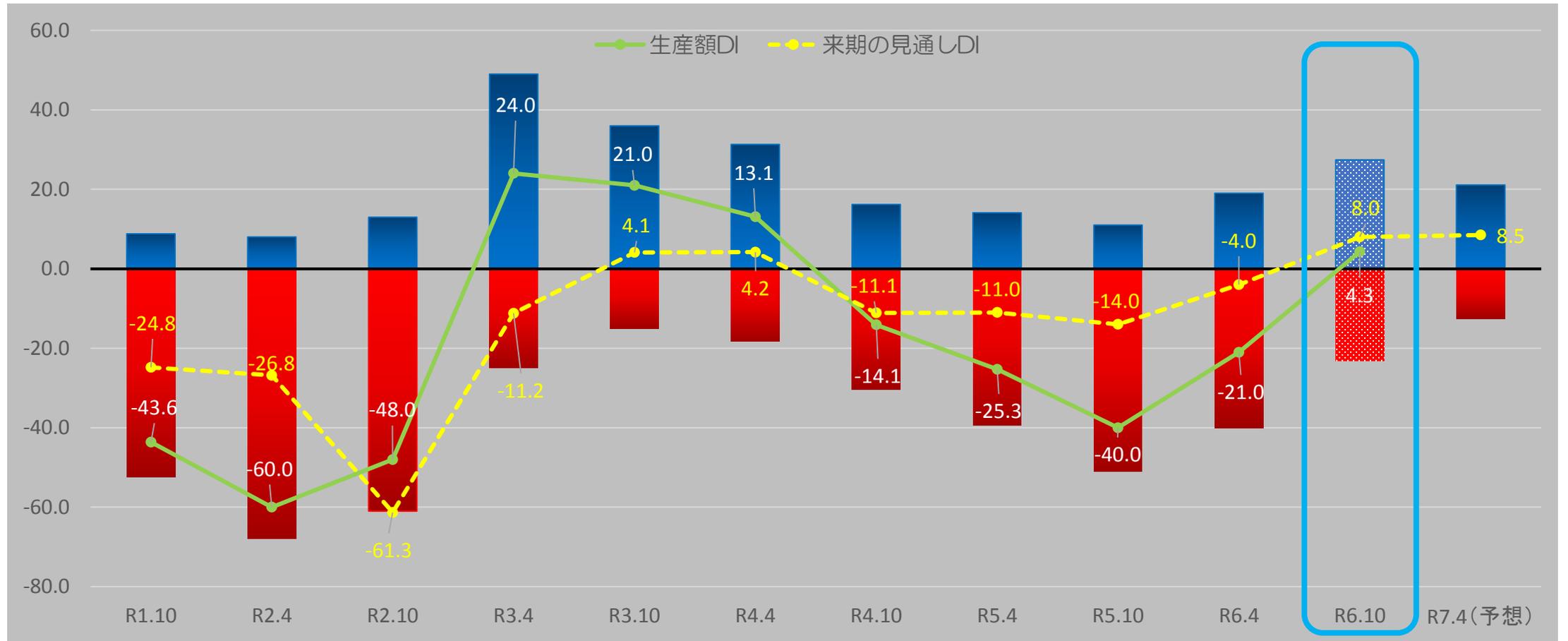
(原材料仕入価格については、棒グラフのプラス側は悪化(上昇)の企業割合、マイナス側は好転(減少)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は悪化(上昇)の企業の割合から好転(減少)の企業の割合を引いた差です。)

①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



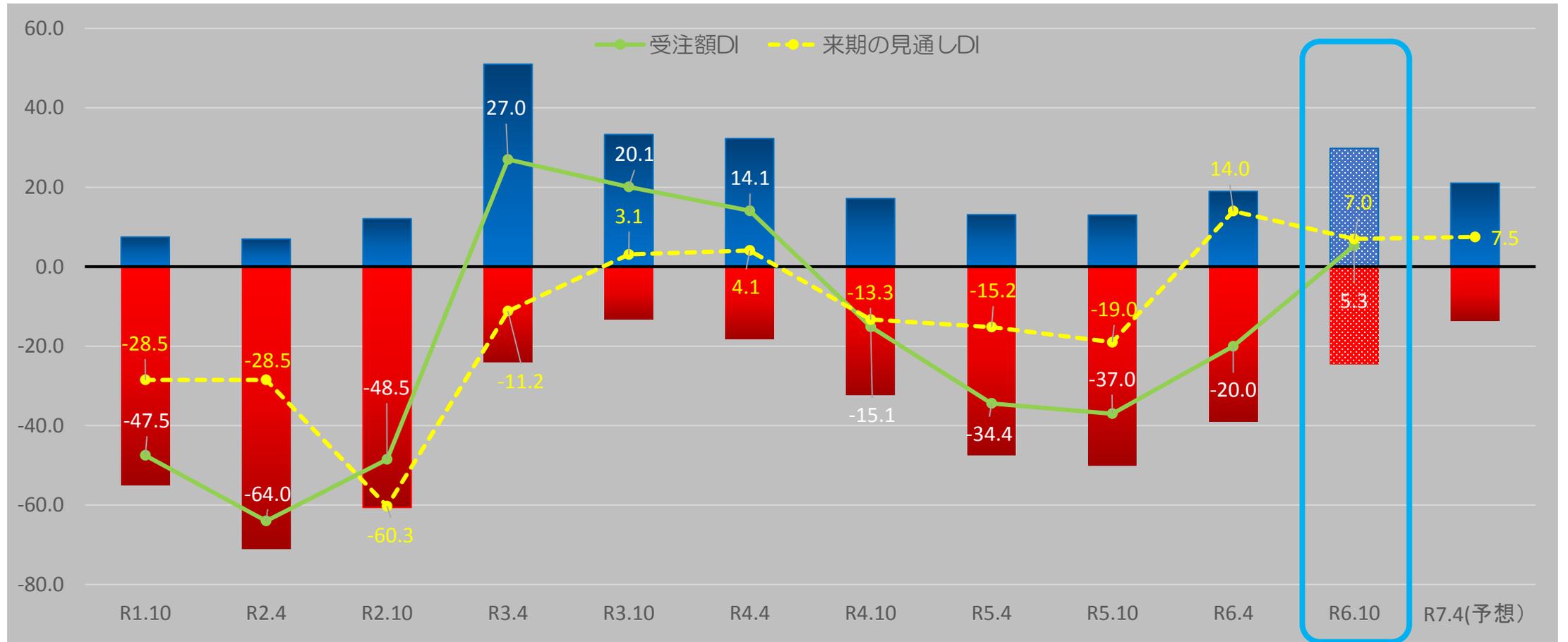
前期と比較したDIは、0ポイントとなり、前期の▲20.0ポイントより20.0ポイント改善しました。
 また、来期の見通しDIは、7.4ポイントとなり、前期の10.0ポイントより2.6ポイント減少しました。

②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



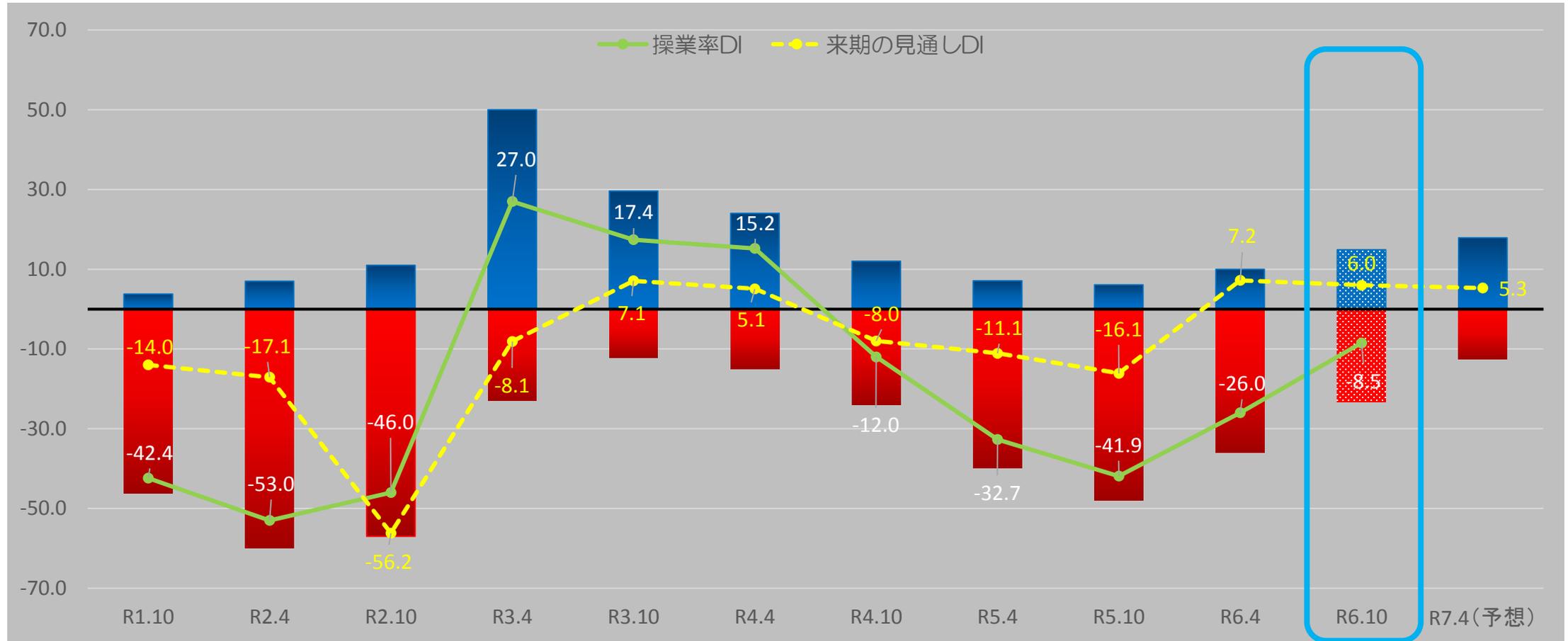
前期と比較したDIは、前期の▲21.0ポイントより25.3ポイント改善し、4.3ポイントとなりました。また、来期の見通しDIは、前期の8.0ポイントより0.5ポイント増加し、8.5ポイントとなりました。

③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



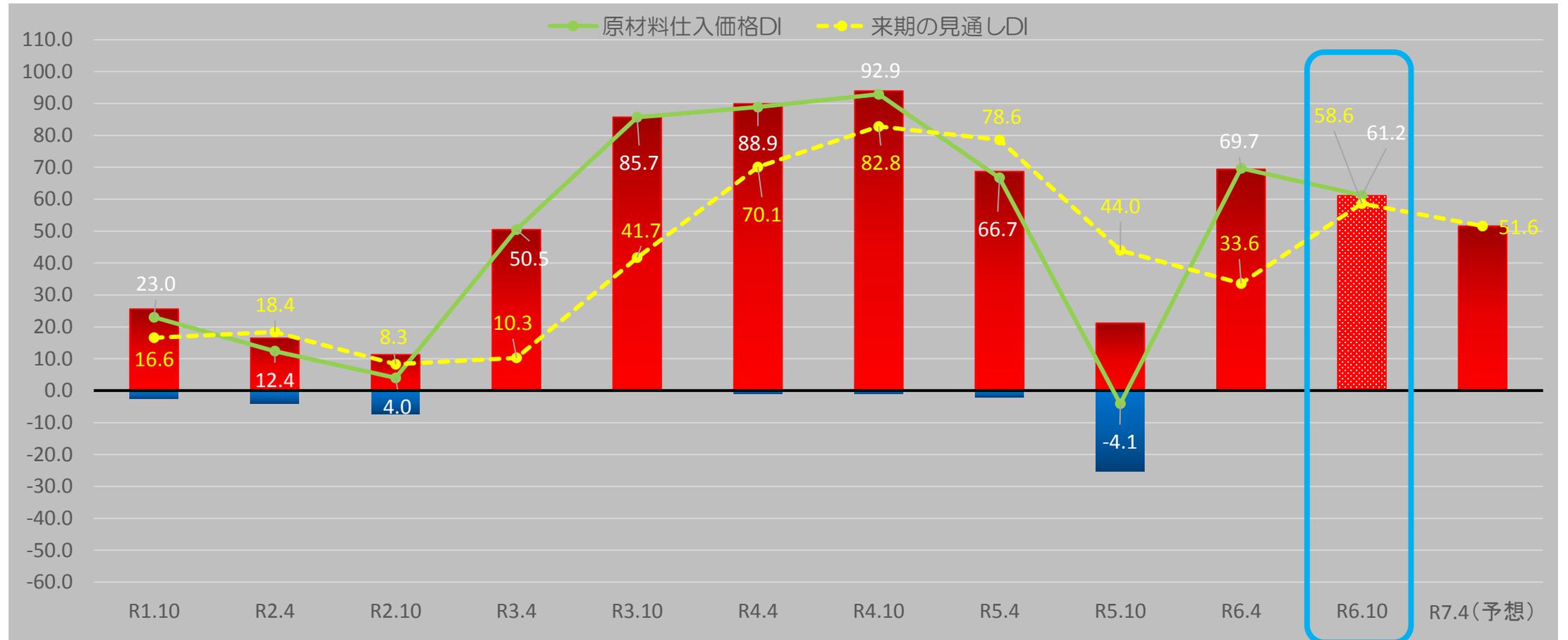
前期と比較したDIは、前期の▲20.0ポイントより25.3ポイント改善し、5.3ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の7.0ポイントより0.5ポイント増加し、7.5ポイントとなりました。

④ 操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



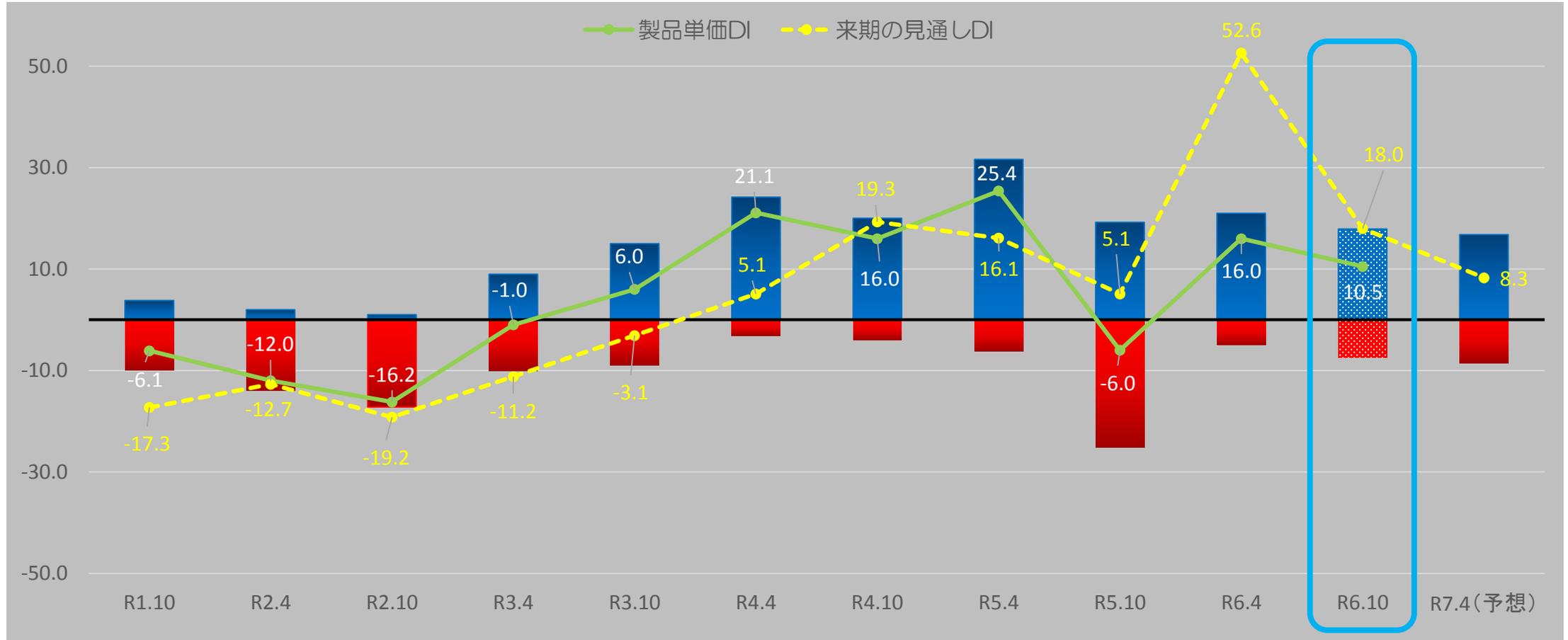
前期と比較したDIは、前期の▲26.0ポイントより17.5ポイント改善し、▲8.5ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の6.0ポイントより0.7ポイント減少し、5.3ポイントとなりました。

⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



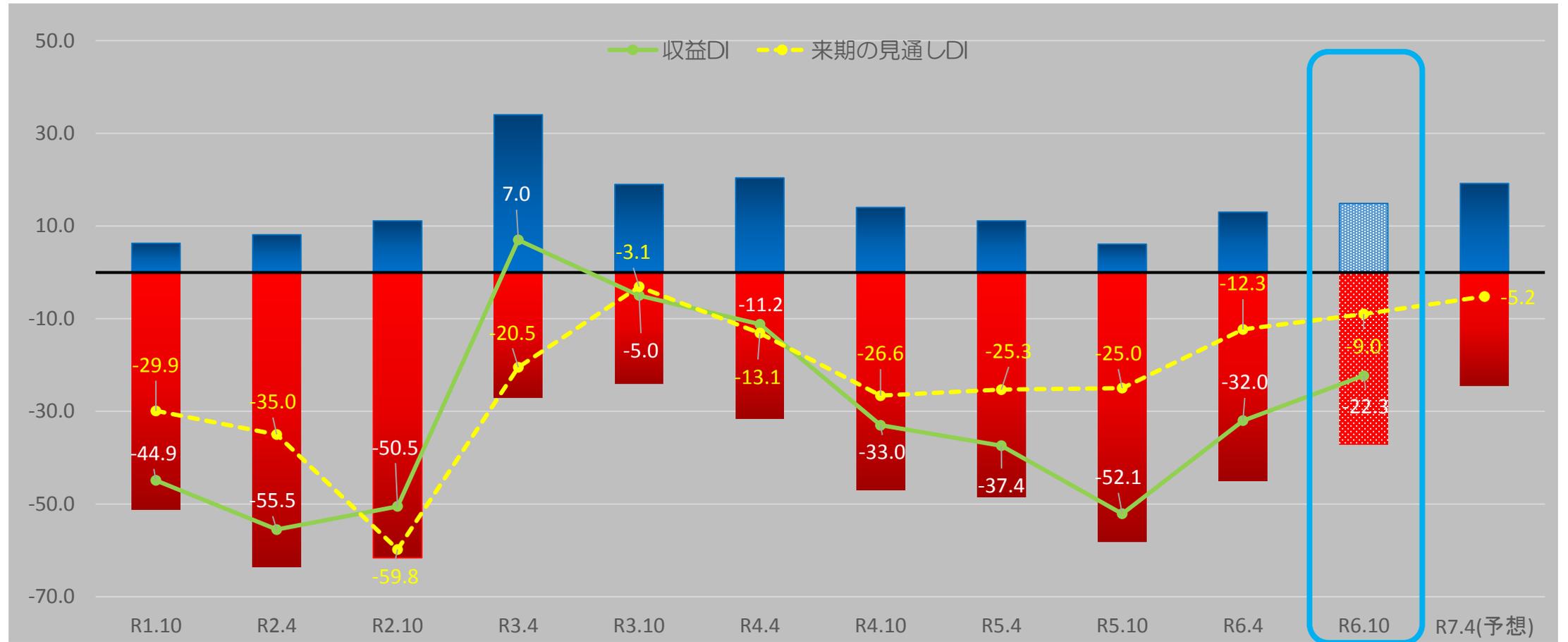
前期と比較したDIは、前期の69.7ポイントより8.5ポイント減少し、61.2ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の58.6ポイントより7.0ポイント減少し、51.6ポイントとなりました。

⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



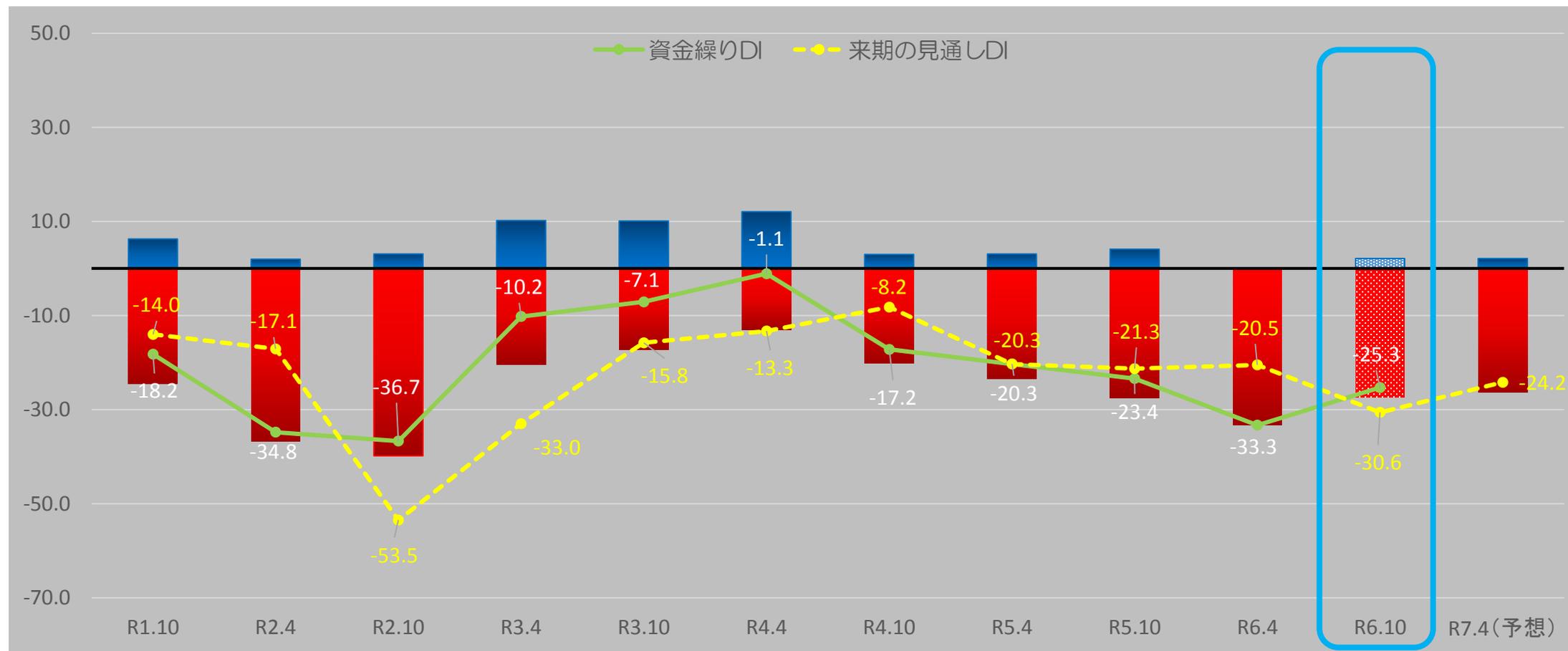
前期と比較したDIは、前期の16.0ポイントより5.5ポイント減少し、10.5ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の18.0ポイントより9.7ポイント減少し、8.3ポイントとなりました。

⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



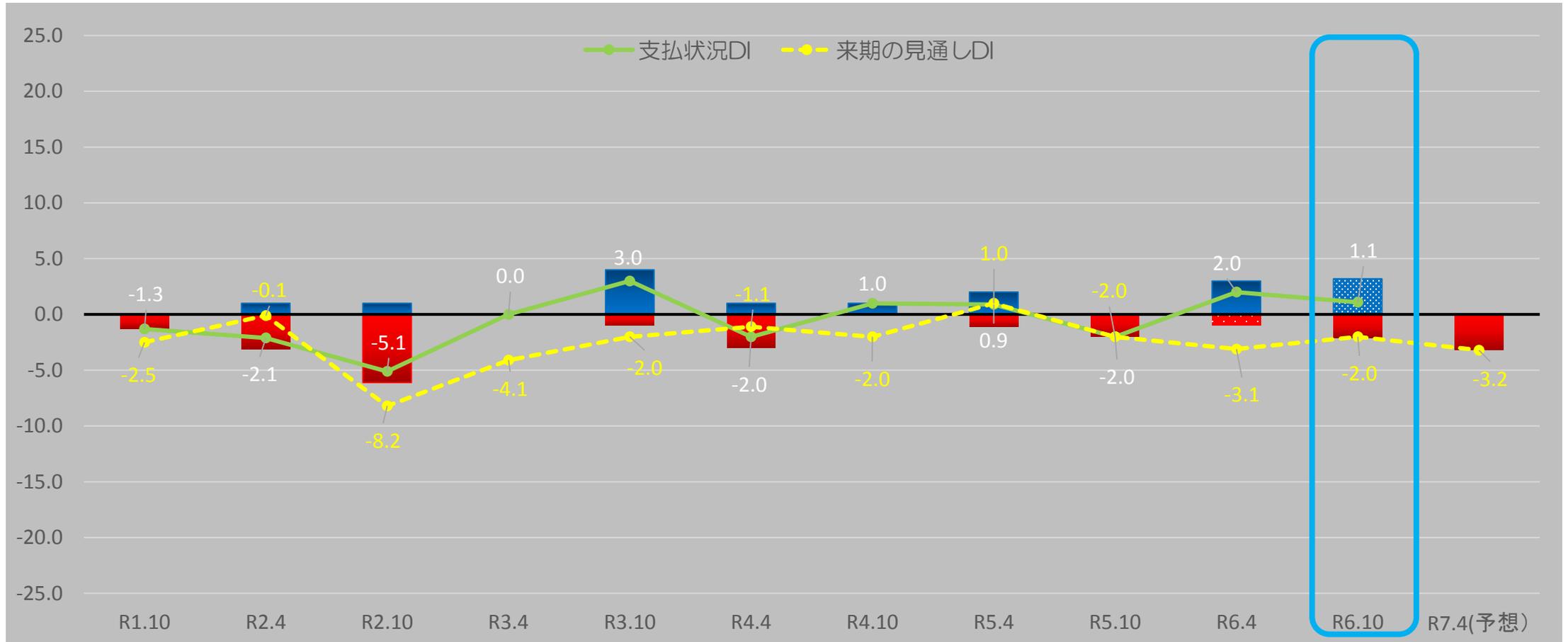
前期と比較したDIは、前期の▲32.0ポイントより9.7ポイント改善し、▲22.3ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲9.0ポイントより3.8ポイント改善し、▲5.2ポイントとなりました。

⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



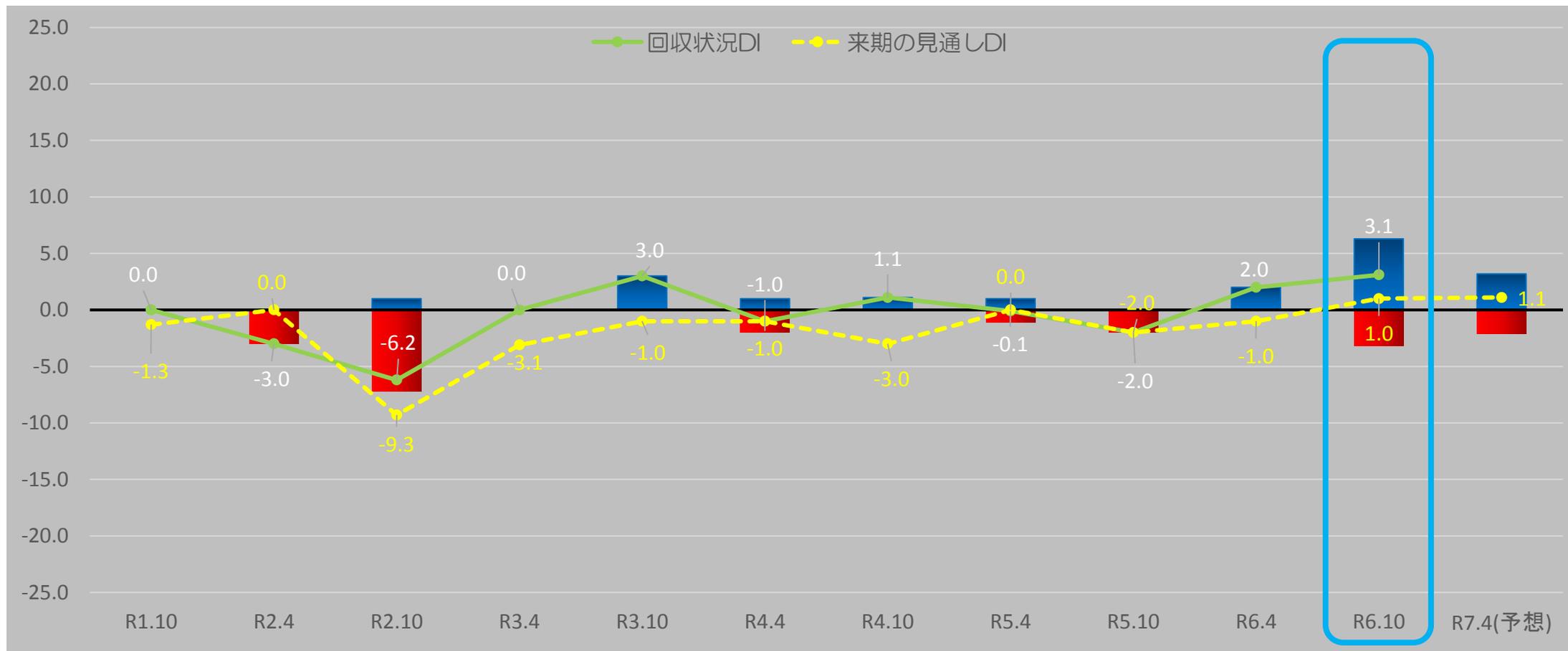
前期と比較したDIは、前期の▲33.3ポイントより8.0ポイント改善し、▲25.3ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲30.6ポイントより6.4ポイント改善し、▲24.2ポイントとなりました。

⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の2.0ポイントより0.9ポイント減少し、1.1ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲2.0ポイントより1.2ポイント減少し、▲3.2ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の2.0ポイントより1.1ポイント増加し、3.1ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の1.0ポイントより0.1ポイント増加し、1.1ポイントとなりました。

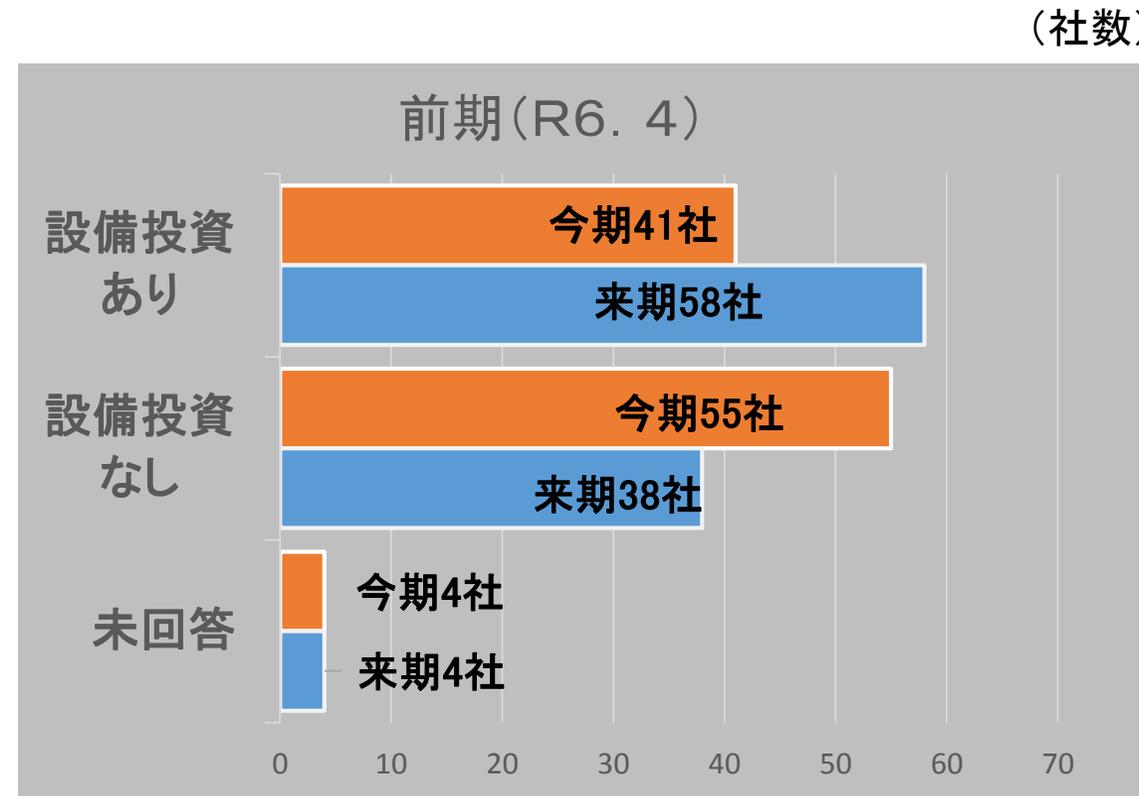
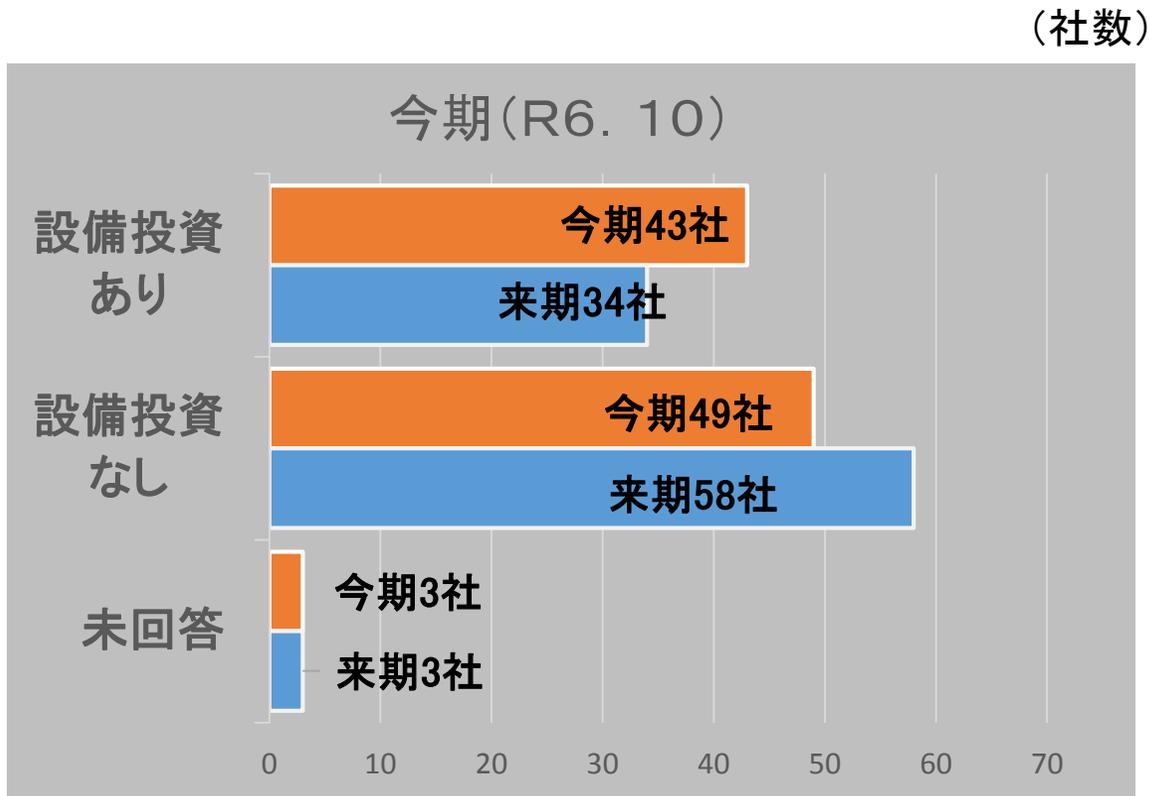
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
前期に比して	0.1	▲8.0	20.0	0.1	0	0
前年同期に比して	0.1	▲28.0	0	▲33.3	8.3	▲33.3

⑫設備投資について

調査企業数:95社

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が今期43社で、前期41社より増加しており、来期に設備投資を行う予定の企業は49社で、前期55社より減少しています。

⑬経営上の問題点(複数回答あり)

調査企業数:95社

項目	回答数	順位 (カッコ内は前年同期 調査時の順位)	項目	回答数	順位 (カッコ内は前年同期 調査時の順位)
原材料の価格上昇	55社	①(2)	後継者の不在	12社	⑧(16)
生産・売上・受注の伸び悩み	51社	②(1)	既存事業の新規受注開拓	10社	⑩(項目なし)
人手不足・求人難	40社	③(3)	敷地・工場の狭小	10社	⑩(13)
設備の狭小・老朽化	31社	④(8)	経費の悪化	8社	⑫(7)
価格転嫁	30社	⑤(6)	新分野進出等新規事業展開	7社	⑬(11)
人材育成・研修	26社	⑥(4)	ゼロカーボン対策への取組	6社	⑭(13)
製品・加工賃の料金安	24社	⑦(5)	労働環境の改善	6社	⑮(12)
デジタル化への取組	12社	⑧(9)	労務管理	1社	⑯(9)

「原材料の価格上昇」が1位となり、「生産・売上・受注の伸び悩み」と並び、概ね半数程度の企業において経営に対する影響を懸念していることが伺えます。また、「原材料の価格上昇」に起因する「価格転嫁」の他、「人手不足・求人難」について引き続き多くの企業が経営上の課題としており、昨今の原油価格・物価高騰等の影響が背景にあることが伺える。